

(仮) 矢川プラス兼矢川複合公共施設

基本計画 概要版

令和元(2019)年6月

国立市

基本計画書 目次

1. 事業概要	・・・ 1
2. 計画地概要	・・・ 1
3. 計画コンセプト	・・・ 2
4. 施設計画の考え方	・・・ 3
5. 検討案の説明	・・・ 6
6. 施設整備費概算	・・・ 8
7. 事業全体のスケジュール	・・・ 8

## 1. 事業概要

現在、東京都によって都営矢川北アパートの建替事業が進められている。この建替事業に伴い生じる土地(以下、「矢川公共用地」という。)の活用について、国立市は、人口減少・超少子高齢社会に対応する次世代育成を核としたまちづくりの一環として、矢川公共用地に施設を建設できるよう東京都と協議を行ってきた。矢川公共用地は、東京都の土地であるため、その活用にあたっては、東京都の各種要綱に合致する必要がある。

矢川公共用地の活用については、これまで周辺の地域課題(高齢化の進展、施設の老朽化、にぎわいの創出)を調査するとともに、市民の方を中心にたくさんの意見を伺ってきた。

そして、2018(平成30)年3月「矢川公共用地(都有地)の活用計画(以下、「活用計画」という。)」を策定した。今後は、活用計画に基づき、施設整備に向けた基本計画の検討を行う。

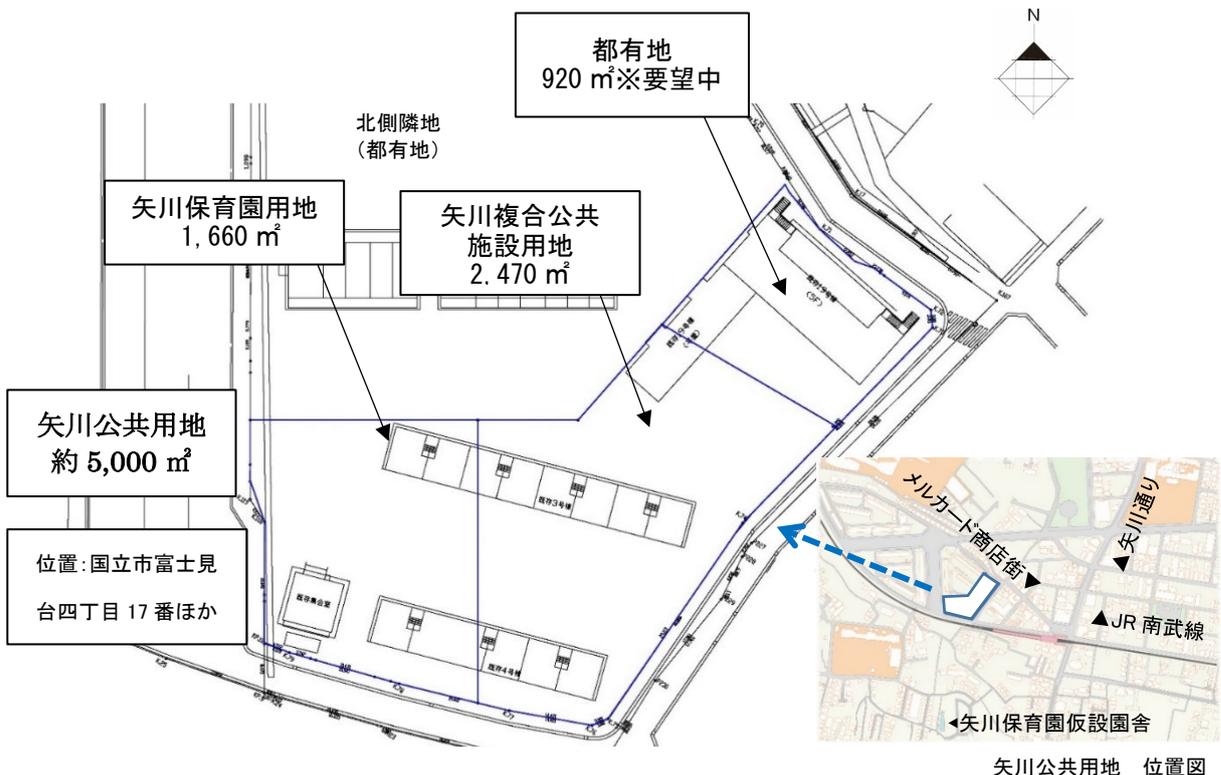
なお、本事業では、矢川公共用地に以下の2つの施設を計画する。

- ①児童館等の公共機能を複合した施設「複合公共施設」(以下、「矢川複合公共施設」という。)
- ②「保育園」(以下、「矢川保育園」という。)

また、この計画では、上記の「矢川複合公共施設」及び「矢川保育園」の両施設を包含するエリア全体を「(仮)矢川プラス」ということとする。

## 2. 計画地概要

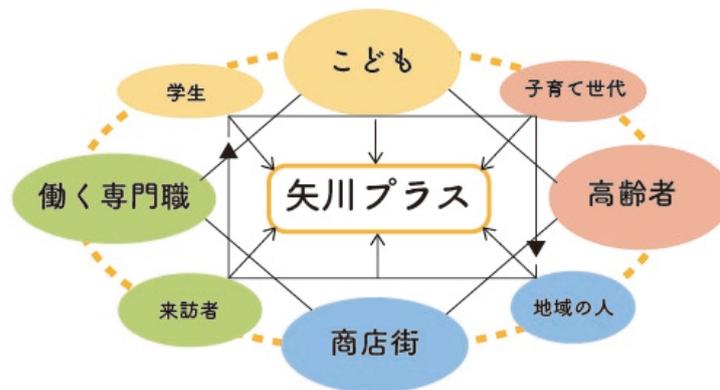
矢川公共用地は下記の敷地に各々の施設計画を行うこととして、東京都と協議及び要望をしている。具体的配置は下記のとおりである。



### 3. 計画コンセプト

活用計画でのコンセプトを基に、基本計画の中で、空間設計との相互検討を行い、場のイメージや空間的なイメージとして、以下のコンセプトを提案する。

#### ～矢川プラスのある暮らし～「まちなかの大きな家と庭」



「まちなかの大きな家と庭」それは、育つ・育む・共に過ごすを通してみんなが元気になれることを目指す空間であり、異年齢交流、地域のさまざまな職業の人々との交流が図られ、人々が集まる空間であり、多様な活動が展開するひろば、季節の変化に対応する都市自然、豊かな内外空間を創造する。そのため、以下の5つの機能とそれを実現する5つの空間の手法を提案する。

#### 「まちなかの大きな家と庭」の5つの機能

- ① 高齢者(多様な地域の人々)と子どもたちが交流、見守りあう機能
- ② 多年齢の子どもたちが交流する機能
- ③ 地域伝統文化、子ども文化、創造文化が継承される機能
- ④ 子どもたちや若者の活動が社会に向けて発信される機能
- ⑤ 地域のおまつりやマルシェをはじめ、園外保育、校外学習の場等、多様な地域のイベントに利用される機能

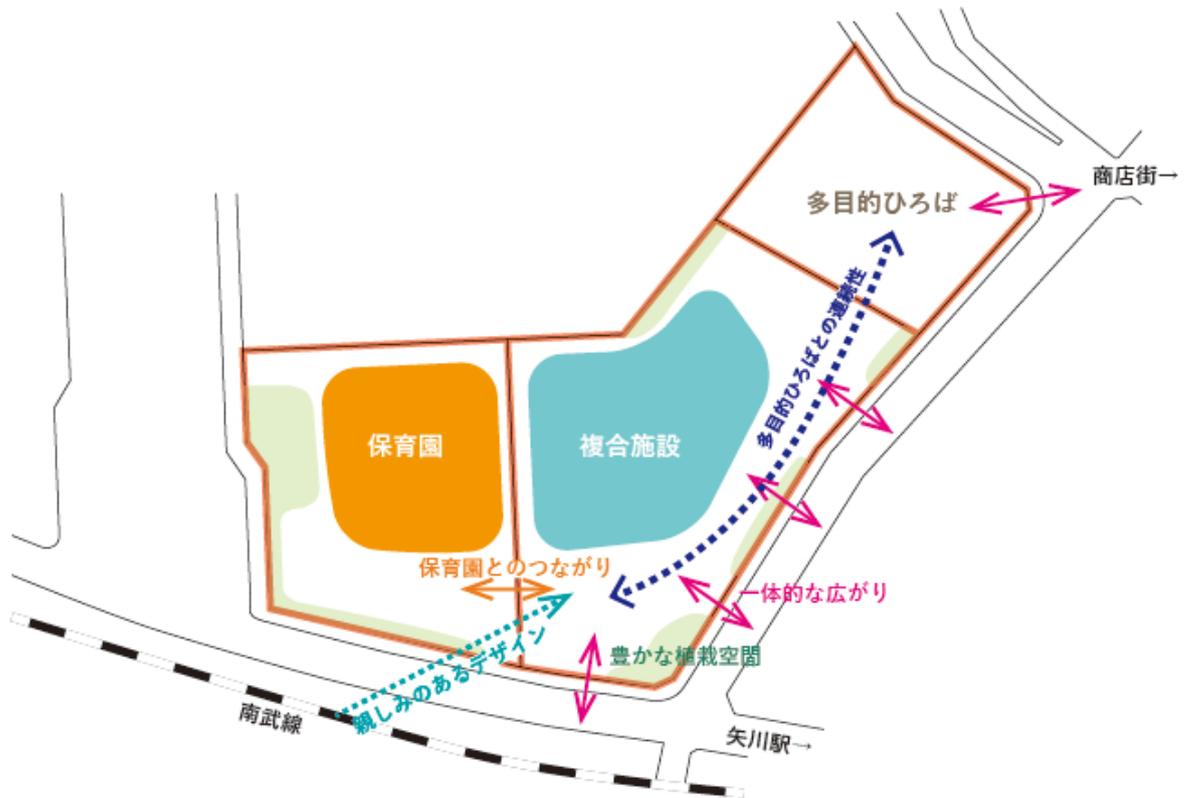
#### 「まちなかの大きな家と庭」を実現する空間の手法

- ① 目的がなくてもあそび・くつろぎに来ることができる「安心・安全で緑豊かな空間」
- ② みんなが集まれる「多様なイベントができる空間」
- ③ 行き止まりがない「回遊し、循環できる空間」
- ④ 1人でも大人数でも自分の居場所が発見できる「多様な場がつながる空間」
- ⑤ 発信する機能「表現し、発表し、発信する機能をもつ空間」

## 4. 施設計画の考え方

### (1) 空間ボリュームの考え方

#### ① 配置検討上の共通事項



- ・ 施設外構と前面道路空間が一体的な広がりを感じられる施設配置、敷地の高さ設定
- ・ 商店街側広場（以下、「多目的ひろば(屋外スペース)」という。）空間と施設南側外構を連続的に捉えることができる施設外郭設定
- ・ 南側外構部を中心に保育園側とのつながりを確保できる計画
- ・ 前面道路に対し、豊かな植栽空間を提供できる外構
- ・ 前面道路通行者や南武線利用者が、矢川地域のシンボルとして親しみを感じられるデザイン

#### ② 空間計画の考え方における共通事項

- ・ 施設ごと、及び矢川プラス全体で、極力行き止まりがなく回遊できる動線空間を確保する。
- ・ フリースペースとして使える広さのある通路空間（以下、「とおひ土間」という。）を取り入れる。
- ・ 多目的ルーム(地域活動ホール)は、多目的ひろば（屋外スペース）に面して配置し、極力開放的なつくりとすることで、多目的ひろば(屋外スペース)と一体利用を促す。

**③ 外構の考え方**

- ・ 矢川複合公共施設の南側の外構空間と、多目的ひろば（屋外スペース）を一体的に活用できる施設配置に配慮する。
- ・ 敷地外とのアクセス性の向上のため、敷地境界の段差解消など配慮する。
- ・ 多目的ひろば（屋外スペース）は、幅広い世代が活用できるように整備するとともに、イベント時の発信する機能を支援する場所とする。
- ・ 防災倉庫の設置を検討する。

## (2) 導入機能の考え方

### 矢川複合公共施設の導入機能と考え方

(仮)矢川プラスは、子ども・高齢・にぎわいをキーワードに誰もが元気になる施設として「まちなかの大きな家と庭」をコンセプトに、子どもの視点では、乳幼児から18歳までの子どもと子育て世代に対し途切れることのない支援を目指し、導入機能として、「児童館」(250㎡)、「子育てひろば(子ども家庭支援センター)」(170㎡)、「幼児教育センター(児童発達支援事業含む)」(170㎡)を一体的に計画し、隣接する保育園と連携・協力しながら、市の子育ち・子育て支援に総合的に取り組んでいく。

高齢者の視点では、矢川駅周辺の介護・医療サービスとも連携する中で、高齢者がいきいきと交流し、互いに支え合い、彩り豊かな暮らしを安心・安全・快適に楽しみ続けることができるよう、目的がなくても気軽に集える居場所となる「ゆとりある共用部(エントランスホールやおおり土間)」(250㎡)を計画する。

また、矢川複合公共施設には、日常的な普段使いはもちろん、地域のおまつりやイベントを通して、子どもも大人も一緒になって活動することで、まち全体ににぎわいが生れる「しくみ」になるよう、多様な活動拠点となる「多目的ルーム(地域活動ホール)」(170㎡)、まちに開いた「多目的ひろば(屋外スペース)」(920㎡)を計画する。

(仮)矢川プラスは、各々の機能が単に集合した施設ではなく、各機能が垣根を越えて複合的につながり、誰もが「まちなかの大きな家と庭」として一体的に利活用できる計画としていく。

## (3) 事業運営の考え方

矢川プラスの事業運営には、「まちなかの大きな家と庭」というコンセプトを実現するため、既にある市民の魅力的な活動(自治会・商店会・NPO等)も取り込みながら、施設全体の事業をコーディネートしていくことが求められる。特に活動の持続性、日々の展開、発信情報の更新(新鮮さの維持)が重要と考えられ、そのきっかけ・拠点となる場・ツールの構築を今後考えていく必要がある。

一方で、矢川保育園については、運営者として国立市社会福祉事業団が設立される予定であり、複合公共施設の各機能との緊密な連携による子育て支援施策の更なる推進が期待される。同事業団設立の意義は、保育所運営にとどまらず、地域の児童福祉の増進を図り、子育て世帯が地域で安心・安全に自立した生活を営むことができる次世代のまちづくりへの貢献を目指すものである。事業団の「育つ・育む・共に過ごす」という考え方は、矢川プラスのコンセプトとも大きく重なる。

複合公共施設の運営については、こうした事業団の設立意義も踏まえつつ、事業団への指定管理委託も視野に入れながら、検討を進めていく。

## 5. 検討案の説明

### (1) 現状計画案

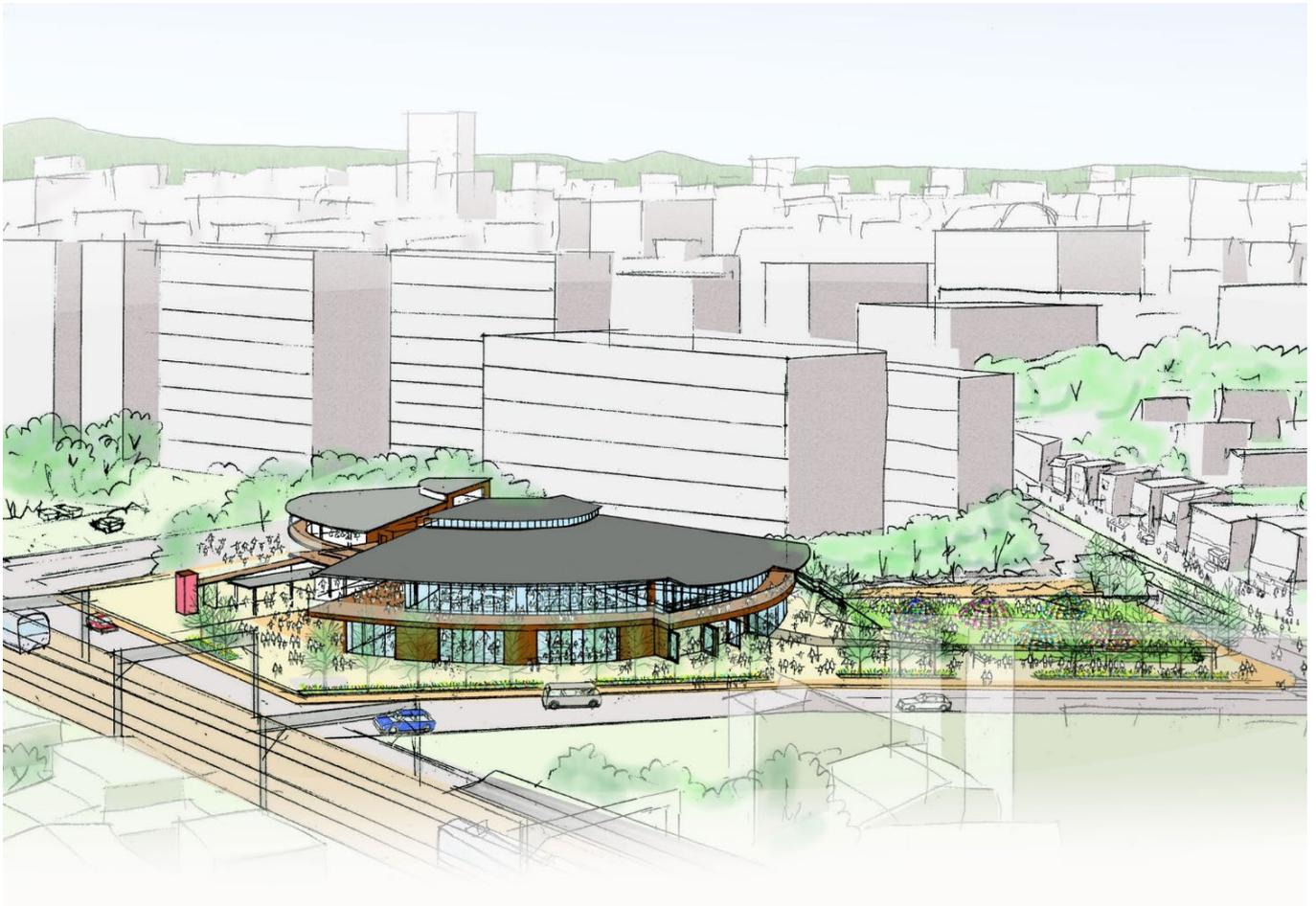
複数案の検討を経て、C-2-3案を優先案として提示する。今後も、引き続き市民参加によるさらなる検討を行っていく。

#### ■C-2-3案 の特徴：

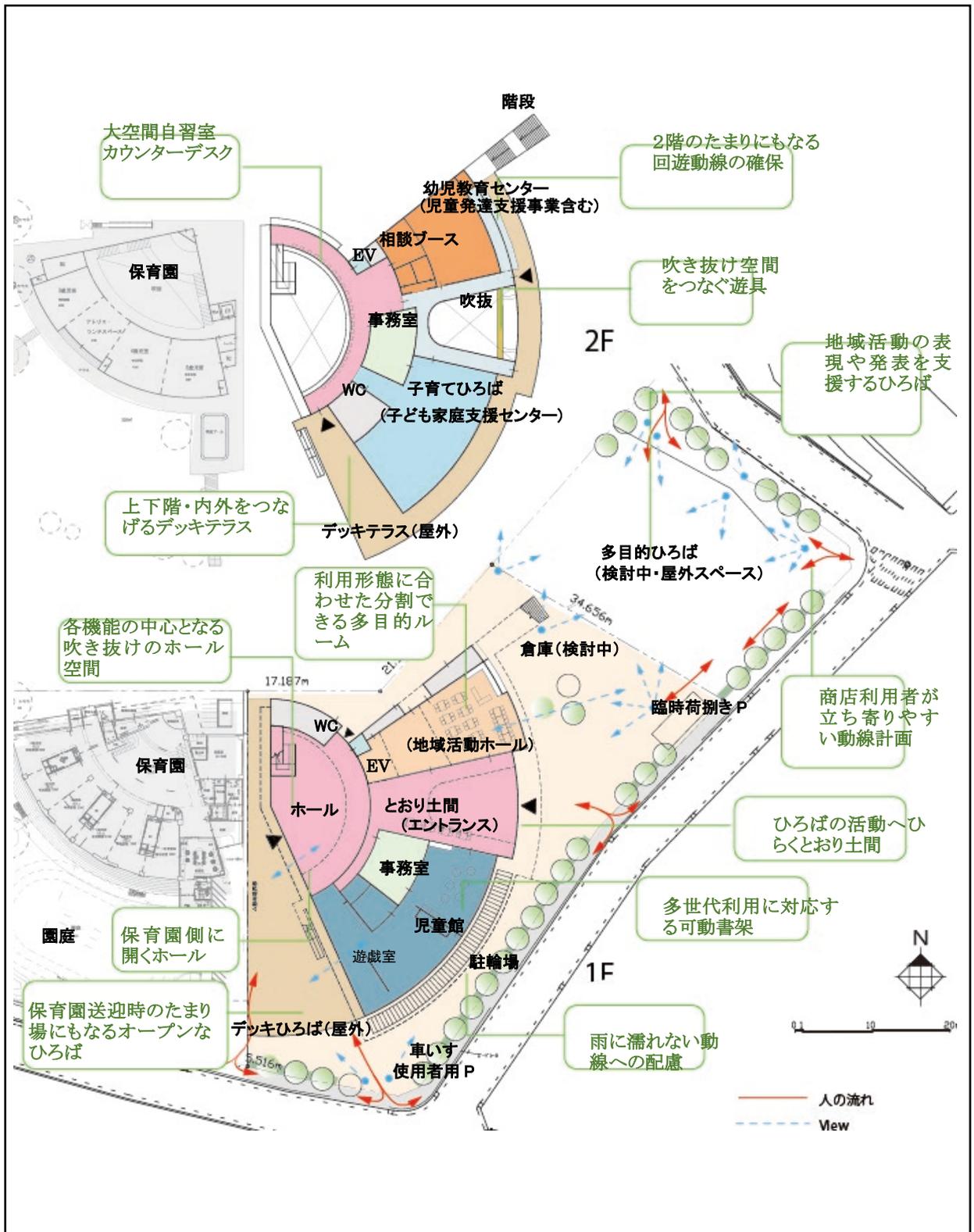
- ・ 北側から多目的ルーム(地域活動ホール)、とおり土間、児童館を配置
- ・ とおり土間はエントランスホールと東側外構をつなぐ位置に配置
- ・ 2階は、幼児教育センターと子育てひろばの間にとおり土間の吹き抜け空間がある
- ・ 保育園との中間領域として両施設の間にデッキひろばを配置

#### ■外構（多目的ひろばを含む）計画：

- ・ 多目的ルームとの関係をもつひろばとなること(防災倉庫・施設倉庫の配置含め)の検討
- ・ 複合施設への導入空間としてのひろばの検討
- ・ 地域における「発信・表現の場」となるひろばの検討
- ・ 両施設側から使用を想定し、保育園敷地境界部1階にデッキひろば(屋外)を配置
- ・ 一般車両用の駐車場は敷地内に設けず、敷地周辺の民間駐車場との連携も検討



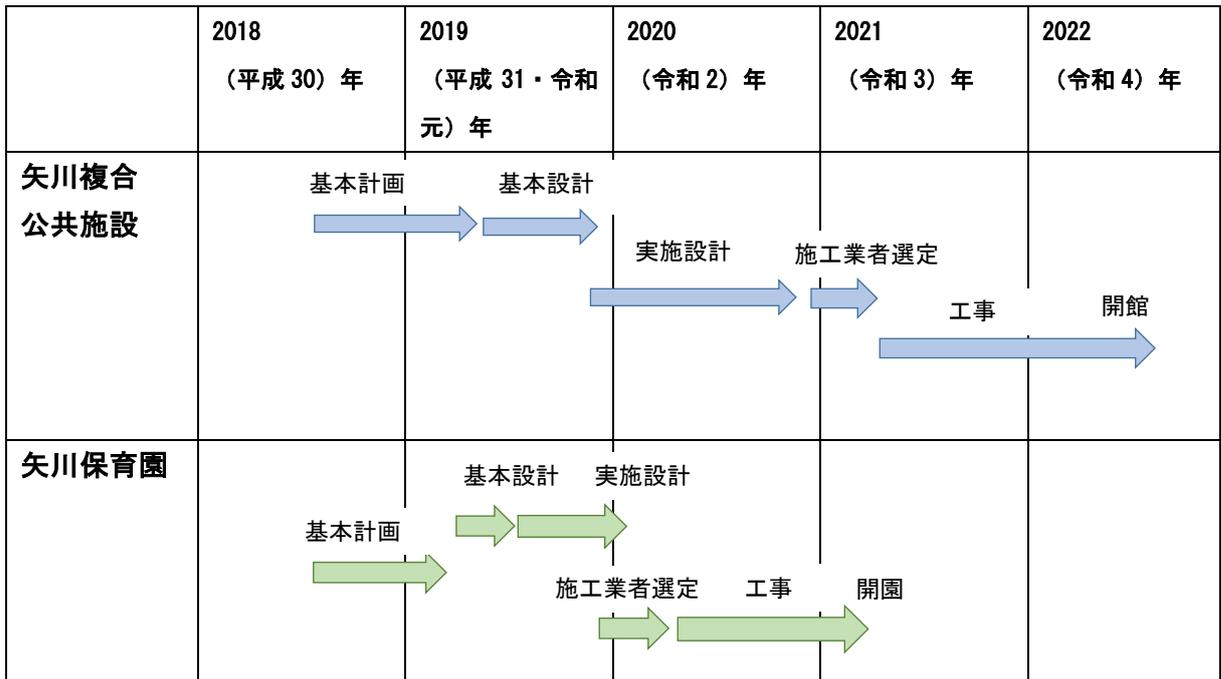
▲鳥瞰イメージ



## 6. 施設整備費概算

工事項目	金額（税込）
複合公共施設	10.5 億円
外構整備	0.8 億円
合計	11.3 億円

## 7. 事業全体のスケジュール





令和元(2019)年6月

(仮) 矢川プラス兼矢川複合公共施設  
基本計画 概要版

---

国立市富士見台地域まちづくり庁内検討会

担当：都市整備部 富士見台地域まちづくり担当  
〒186-8501 東京都国立市富士見台 2-47-1  
電話：042-576-2111/FAX：042-576-0264

策定支援：

株式会社 環境デザイン研究所

〒106-0032 東京都港区六本木5-12-22  
電話：03-5575-7171/FAX：03-5562-9928